

## メッセージアウトライン

### テサロニケ人への手紙 第一1:2~3 「感謝と祈り」

[2-3]「私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています」

2節は手紙の冒頭のパウロの感謝のことばであるが、いくつかの大切なことを教えられる。

①パウロが感謝をささげる対象は天地万物の造り主、真の神である。人間の考え出した八百万の神々ではなく、太陽、月、星などの被造物でもない。

②彼が感謝をささげる根拠は神がテサロニケ人たちに与えてくださった恵みである。神の恵みによって彼らは福音を聞いて救われ、神に従う者となった。→使徒17:2~4 恵みとは1:1で述べられているが、神から与えられる過分の御恩寵を意味し、具体的にはイエス・キリストによる罪からの救い、また罪赦された者を新しい使命のために力づけるもの。→Iコリント15:9~10

③彼はあなたがた（テサロニケ人）すべてのために神に感謝している。テサロニケ人たちも信仰上の様々な問題を持っていた。→5:14 しかし、それらのことをすべて含めた上でパウロは彼らすべてのために感謝している。それはそのようなテサロニケ人であっても、彼ら自身の存在を根底で支えている神の恵みの事実があるからである。パウロ自身もこの恵みによって生かされている。→Iコリント15:10

④彼が感謝するのは「いつも」である。

これは母親が生まれたばかりのわが子を、自分が何をしていても、いつも心に留め、忘れることのないのと同じあり方。

⑤さらにこの感謝は「祈り」と深く結びついている。

祈りと感謝はクリスチャン生活の両輪と言える。パウロの他の多くの手紙の書き出しでも同様。→ローマ1:8,10、エペソ1:16、コサ1:3、ピリピ1:3~4、IIテモ1:2~3

神がなしてくださったことへの感謝とともに、様々な願い、とりなし、必要のために、そしてすべてのことの上に神のみこころになるように祈っていくことは大切なことである。

3節でパウロは祈りのときにテサロニケ人たちを覚え、三つのことを思い起こしている。これらはすべて「私たちの父なる神の御前に」とあるように神の御子キリストによって、神を父と呼べるようになったその恵みの事実によって言われている。

①信仰の働き…これはヤコブ書で言われている、信仰から出てくる行いのことと思われる。→ヤコブ2:14~17、26 信仰があるならば、その信仰に裏打ちされた行い、生き方が実践されなければならない。

②愛の労苦…これは報酬を求めず常に与える神の愛に源を持つ。その愛はイエス・キリストの十字架においてはっきり現された。→ヨハ3:16 この愛を注がれた信仰者が、見返りを求めないで他の人々のために労すること。これが愛の労苦である。

③主イエス・キリストへの望みの忍耐…この望みはイエス・キリストが王の王、主の主としてこの世に再び来られること（再臨）と堅く結びついている。

望みや希望のない忍耐は空しい。それは単なる苦しみを生むだけである。しかし、イエス・キリストの再臨という確かな望みに立つとき、私たちは積極的な確信に満ちた生き方、忍耐が可能になる。→ローマ8:18~25

テサロニケ人たちだけではなく、イエス・キリストによって罪贖われ、救いに入れられた者はこのように、信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐をもって、喜びと感謝、また、確信と祈りを持って生きることができるのである。